



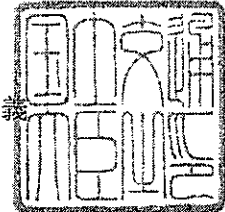
認 定 書

国 住 指 第 2057 号
平成 21 年 9 月 14 日



ニチハ株式会社
代表取締役社長 井上 洋一郎 様

国土交通大臣 金子 一義



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号の二及び同法施行令第 107 条の 2 第二号（軒裏：30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
QF030RS-0155
2. 認定をした構造方法等の名称
両面化粧有孔有機質系繊維混入セメント板表張／木製下地軒裏
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

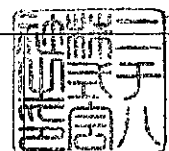
（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。



素晴らしい人間環境づくり

ニチハ株式会社

管理番号 NICHHA・F-



1. 構造名：

両面化粧有孔有機質系繊維混入セメント板表張／木製下地軒裏

2. 申請仕様の寸法：

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項 目	申 請 仕 様
軒の出	1000mm以下
軒の幅	構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法
軒の形状	勾配又は水平

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項 目	申 請 仕 様								
被覆材	<p>材料：両面化粧有孔有機質系繊維混入セメント板</p> <p>組成：</p> <table border="0"> <tr> <td>セメント質原料</td><td>70(±7)質量%</td></tr> <tr> <td>無機質混和材</td><td>22(±7)質量%</td></tr> <tr> <td>有機質繊維</td><td>6(±2)質量%</td></tr> <tr> <td>有機質混和材</td><td>2(±1)質量%</td></tr> </table> <p>但し、</p> <p>セメント質原料：セメント、けい酸質原料等</p> <p>無機質混和材：パーライト、マイカ等</p> <p>有機質繊維：パルプ、合成繊維等</p> <p>有機質混和材：パルプ粉等</p> <p>塗料(表裏面)</p> <p>材料：1)～6)の一</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アクリルウレタン樹脂系塗料 2) アクリル樹脂系塗料 3) アクリルシリコーン樹脂系塗料 4) ふっ素樹脂系塗料 5) エポキシ樹脂系塗料 6) ポリシロキサン樹脂系塗料 <p>塗布量：表裏面合計350g/m²以下(有機固形分量)</p> <p>密度：0.9(－0.1)g/cm³以上</p> <p>形状：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 表面形状 <ul style="list-style-type: none"> 厚さ：12～25(±1)mm 幅：455mm以上 2) 断面形状(図7参照) <ul style="list-style-type: none"> 最低板厚(中実部)：10mm以上 容積欠損率(模様深さ)：8.8%以下 (但し、板厚12mmを超える場合は裏面から12mmの位置での欠損率とする) 3) 表面の形状：①～④の一 <ul style="list-style-type: none"> ① 平滑 ② 平滑・溝加工 ③ エンボス ④ エンボス・溝加工 4) 有孔の仕様(図6参照) <ul style="list-style-type: none"> 孔の直径：6mm以下 孔の間隔：縦及び横25mm以上 孔の数： <ul style="list-style-type: none"> 縦：10個以下、横：15個以下 孔の位置： <ul style="list-style-type: none"> 縦：端部から100mm以上離れた位置 横：端部から52.5mm以上離れた位置 	セメント質原料	70(±7)質量%	無機質混和材	22(±7)質量%	有機質繊維	6(±2)質量%	有機質混和材	2(±1)質量%
セメント質原料	70(±7)質量%								
無機質混和材	22(±7)質量%								
有機質繊維	6(±2)質量%								
有機質混和材	2(±1)質量%								
野縁	<p>材料：日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材</p> <p>断面寸法：30×30mm以上</p> <p>取付間隔：500mm以下</p>								

つづく

つづき

吊り木	材料：①又は② ①なし ②日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材 断面寸法：30×30mm以上 取付間隔：500mm以下
-----	---

4. 申請仕様の副構成材料：

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

項 目	申 請 仕 様
目地部材	<p>材料：①、②又は③(図7参照)</p> <p>①突付け目地</p> <p>②金属ジョイナー</p> <p>ジョイナーの材質：1)～7)の一</p> <p>1)溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)</p> <p>2)溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)</p> <p>3)溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321)</p> <p>4)ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744、金属板のアルミニウム又はアルミニウム合金板は除く)</p> <p>5)熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304)</p> <p>6)冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305)</p> <p>7)溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069及び0070)</p> <p>厚さ：0.25mm以上</p> <p>形状：H形又はT形</p> <p>塗料(あり又はなし)：1)～7)の一</p> <p>1)アクリルウレタン樹脂系塗料</p> <p>2)アクリル樹脂系塗料</p> <p>3)アクリルシリコーン樹脂系塗料</p> <p>4)ふっ素樹脂系塗料</p> <p>5)エポキシ樹脂系塗料</p> <p>6)ポリシロキサン樹脂系塗料</p> <p>7)ポリエステル樹脂系</p> <p>塗布量：300g/m²以下(有機固形分量)</p> <p>③本実・合いじゃくり目地</p> <p>端部形状(外装材相互の重なりと隙間、図7参照)</p> <p>重なり：6mm以上、隙間：3mm以下</p> <p>・目地部防水材</p> <p>材料：1)又は2)</p> <p>1)なし</p> <p>2)合成ゴム</p> <p>使用量：5g/m以下</p>
受材	<p>材料：日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材</p> <p>断面寸法：30×40mm以上</p> <p>取付間隔：455mm以下</p>

つづく

つづき

留付材	<p>被覆材固定用：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①リングくぎ</p> <p>②スクリューくぎ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線(JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線(JIS G 3532)</p> <p>寸法：胴部径ϕ2.3×長さ38mm以上</p> <p>③タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径ϕ2.0×25mm以上</p> <p>留付間隔：227mm以下</p>
	<p>野縁固定用(たるきへの固定)：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①鉄丸くぎ(JIS A 5508)</p> <p>寸法：N75以上</p> <p>②くぎ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線(JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線(JIS G 3532)</p> <p>寸法：胴部径ϕ2.75×長さ75mm以上</p> <p>③タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径ϕ2.5×40mm以上</p> <p>留付間隔：500mm以下</p>
	<p>野縁固定用(鼻隠し下地への固定)：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①鉄丸くぎ(JIS A 5508)</p> <p>寸法：N50以上</p> <p>②くぎ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線(JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線(JIS G 3532)</p> <p>寸法：胴部径ϕ2.75×長さ50mm以上</p> <p>③タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径ϕ2.5×40mm以上</p> <p>留付間隔：500mm以下</p>

つづく

つづき

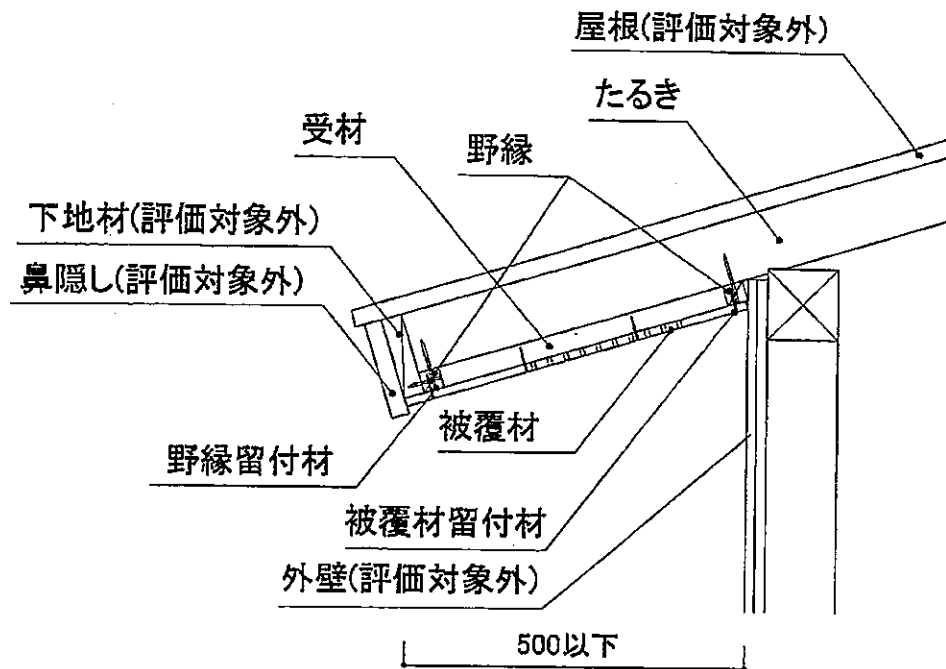
留付材	<p>吊り木固定用(吊り木を用いる場合)：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①リングくぎ</p> <p>②スクリークぎ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線(JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線(JIS G 3532)</p> <p>寸法：胴部径ϕ2.3×長さ50mm以上</p> <p>③タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径ϕ2.0×45mm以上</p> <p>留付間隔：227mm以下</p>
-----	---

5. 申請仕様の構造説明図：

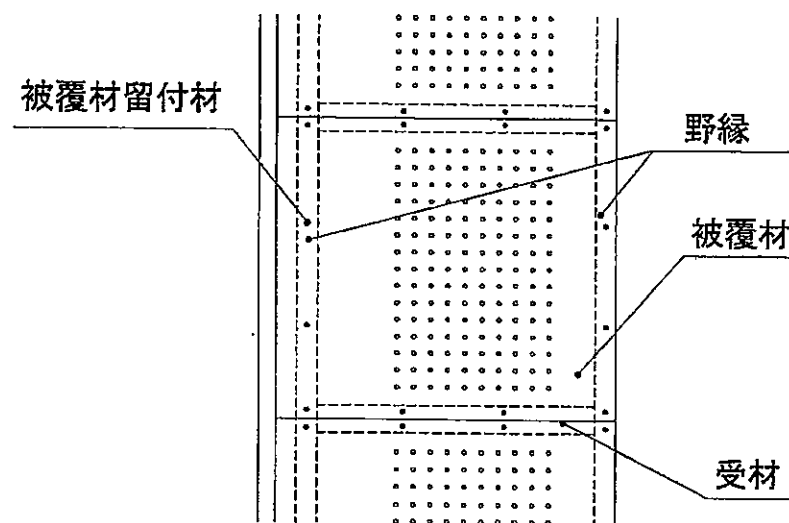
申請仕様の構造説明図を図1～図7に示す。

被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合

単位 mm



軒部詳細図



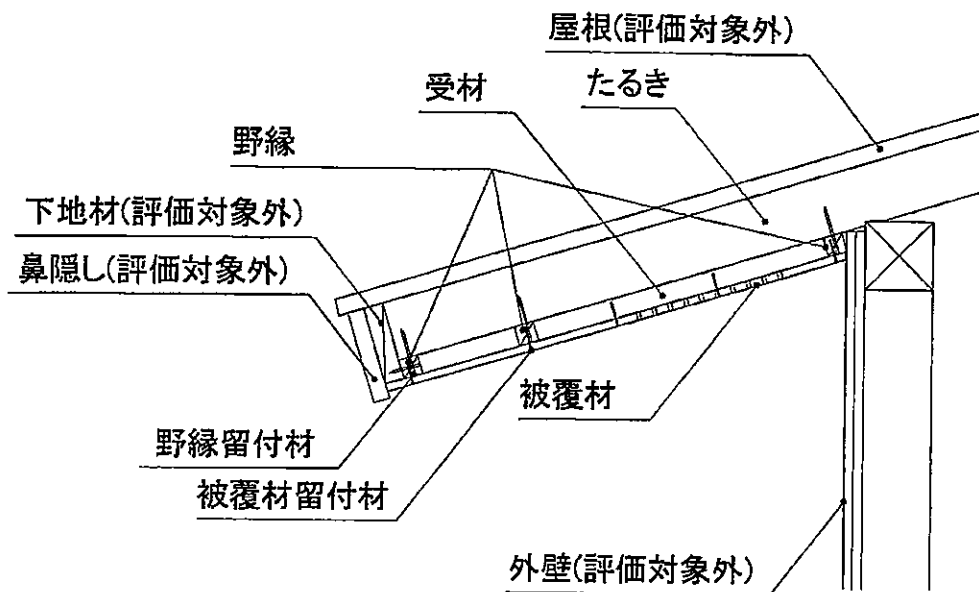
被覆材平面図

図1 構造説明図

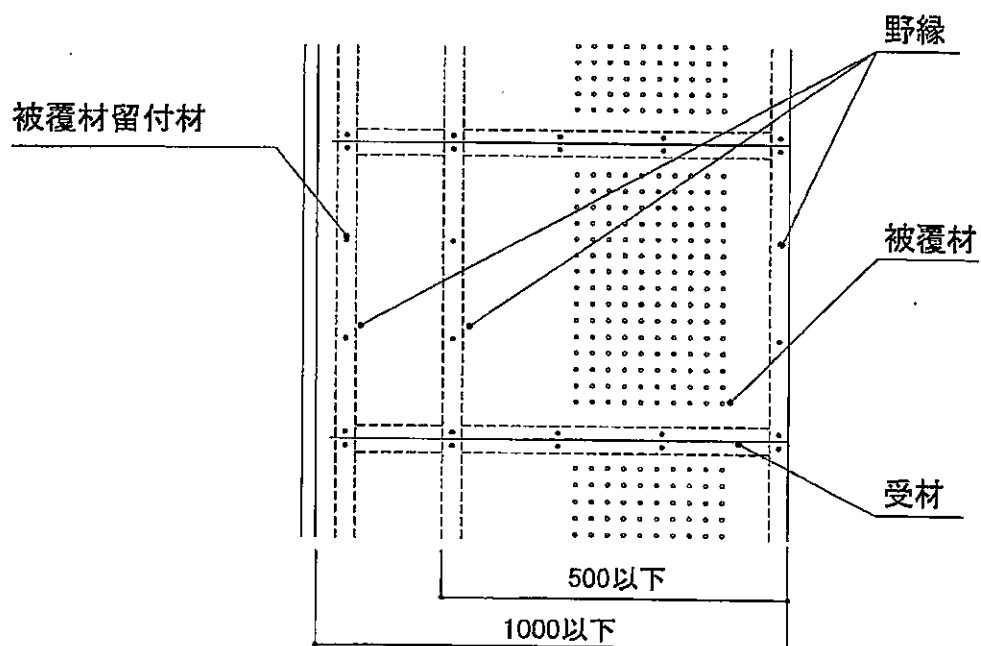
被覆材勾配

単位 mm

軒の出(被覆材長さ)が500～1000mm以下の場合



軒部詳細図

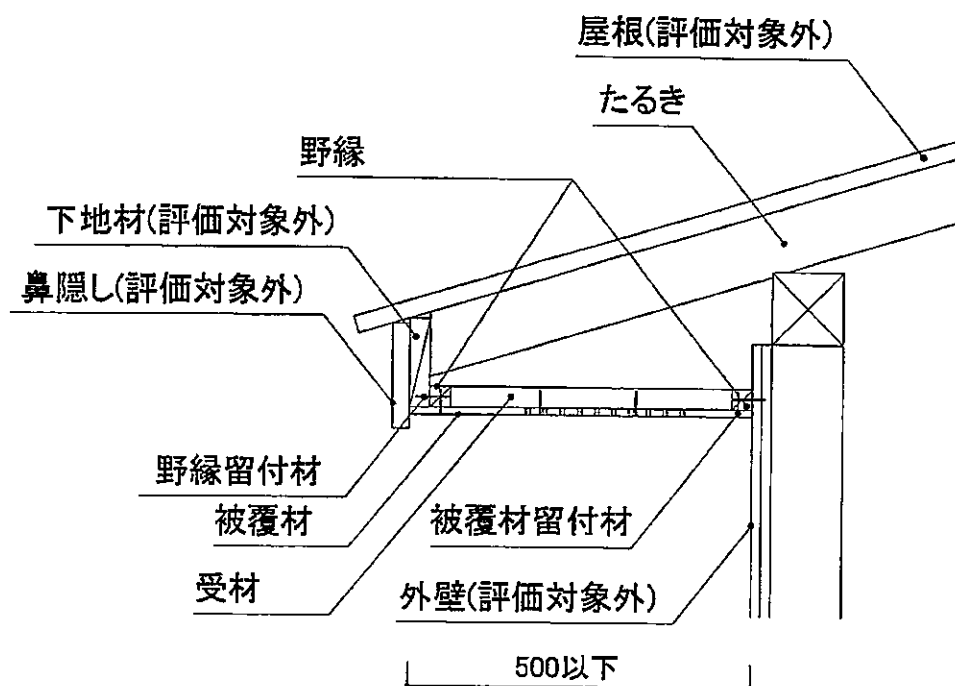


被覆材平面図

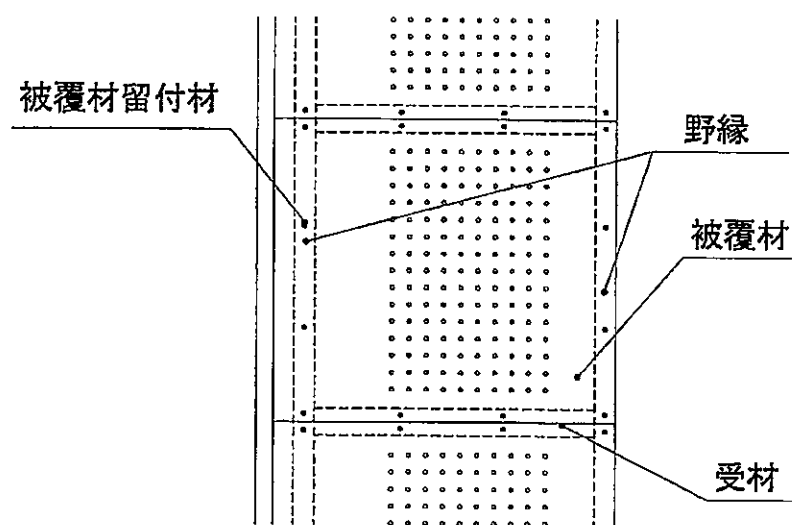
図2 構造説明図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合

単位 mm



軒部詳細図



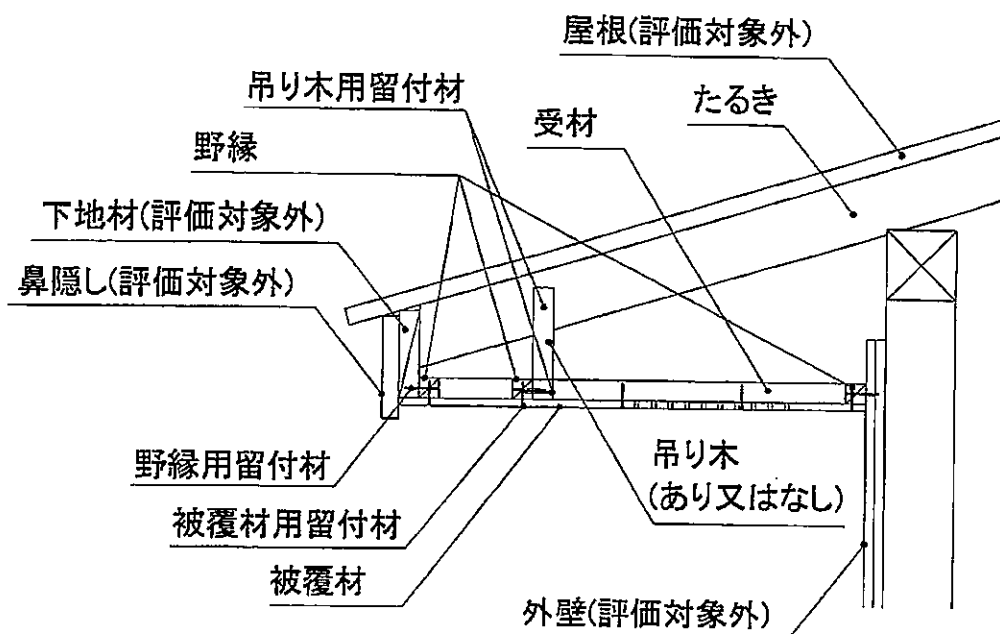
被覆材平面図

図3 構造説明図

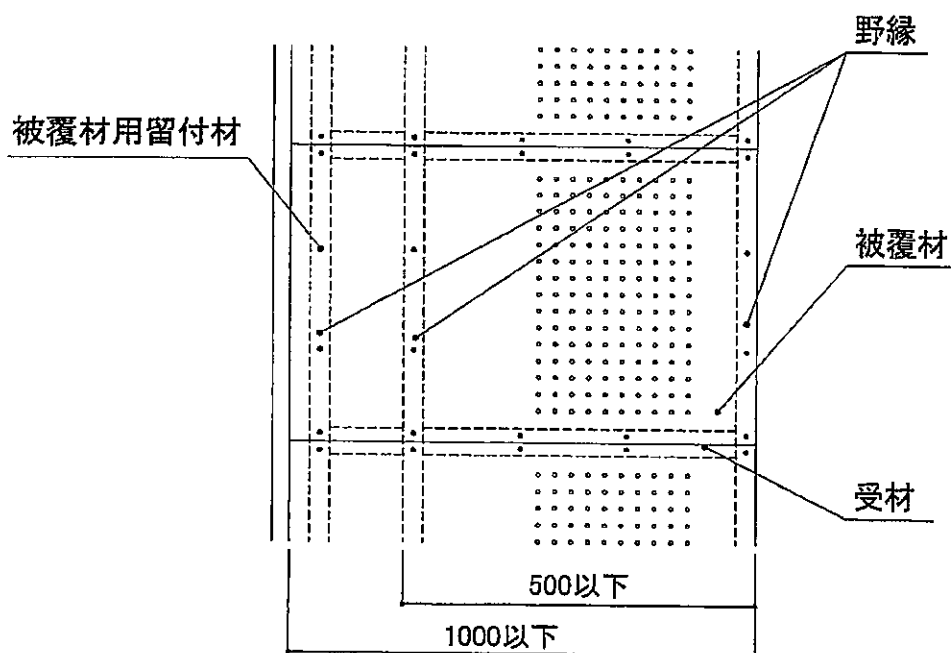
被覆材水平

軒の出(被覆材長さ)が500～1000mm以下の場合

単位 mm

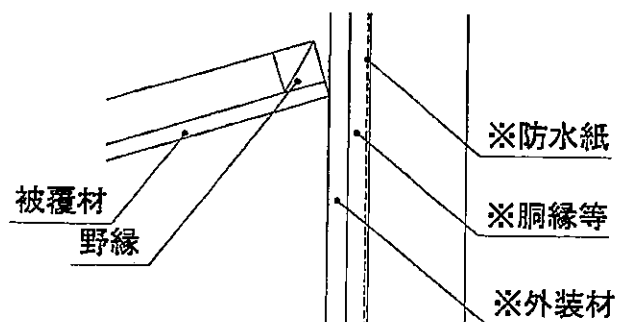


軒部詳細図

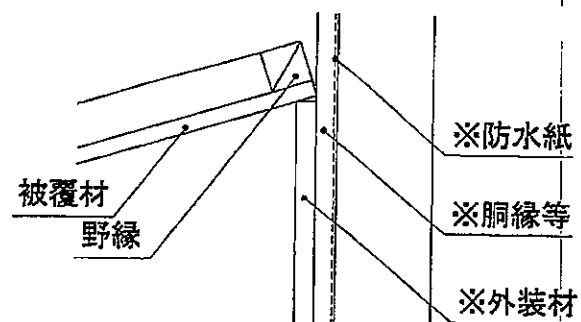


被覆材平面図

図4 構造説明図

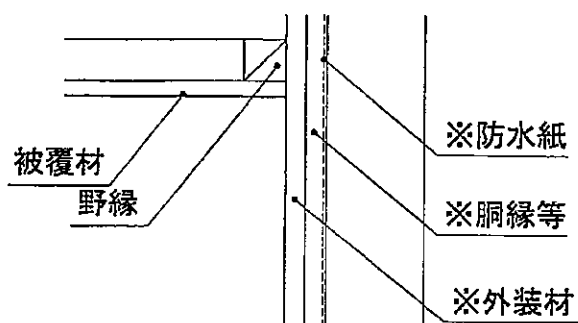


①被覆材勾配、外壁材勝ちの場合

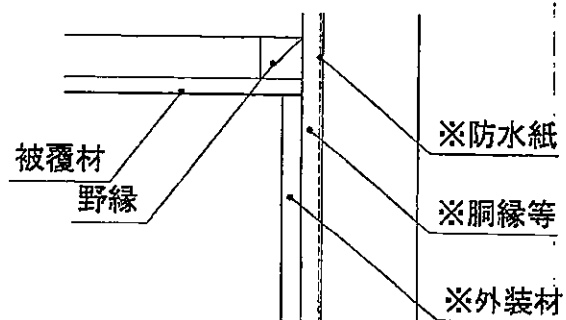


②被覆材勾配、被覆材勝ちの場合

※: 評価対象外



③被覆材水平、外壁材勝ちの場合

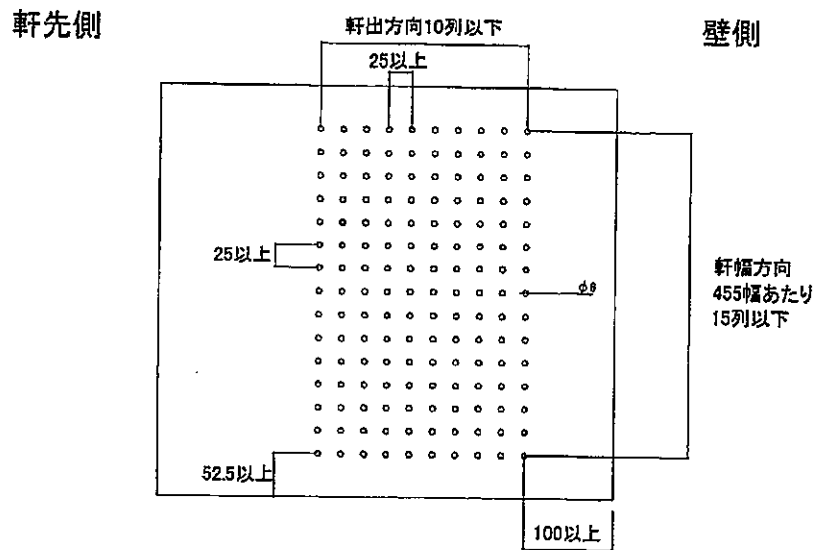


④被覆材水平、被覆材勝ちの場合

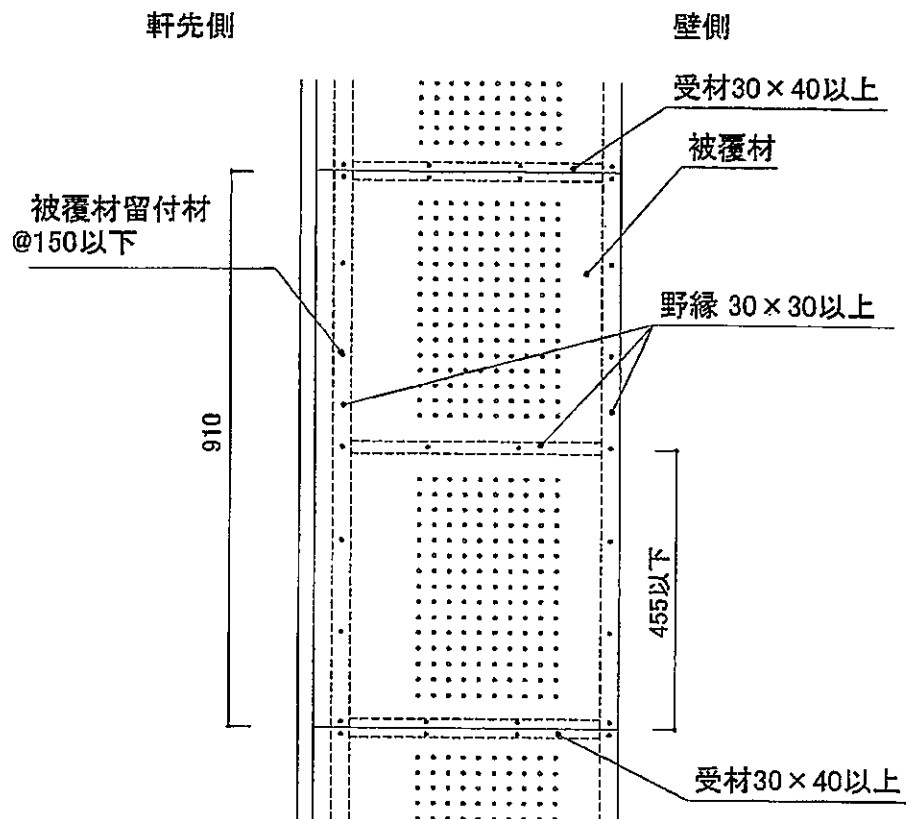
軒元の納まり図

図5 構造説明図

単位 mm



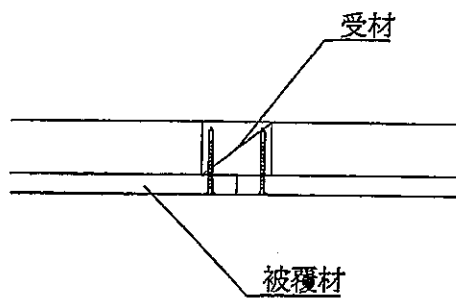
被覆材の孔寸法・位置



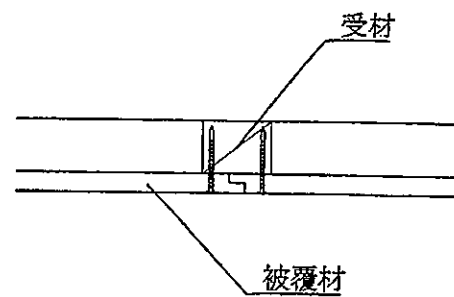
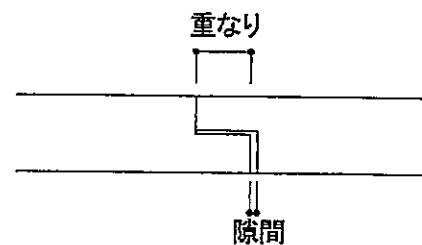
被覆材が455幅以上の場合の留付例:910幅製品の場合

図6 構造説明図

①突付け目地

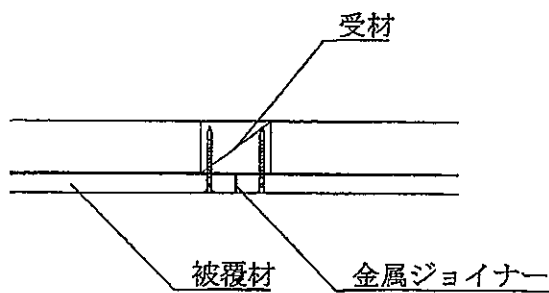


②本実・合いじゃくり目地

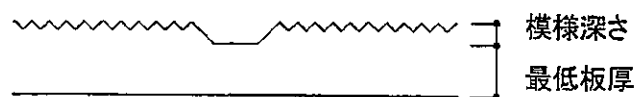


合いじゃくり形状

③金属ジョイナー目地



被覆材の目地処理(目地部材)



被覆材断面形状

図7 構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図8～図11に示す。

施工方法は以下の手順で行う。

(1) たるきの取付け

屋根材にたるきを取付け、たるきに下地材を取付ける。

(2) 野縁の取付け

1) 軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合は、野縁を軒の出方向及び軒の幅方向に配置し、取付間隔が500mm以下となるよう、野縁固定用留付材を用いて下地材、たるきに取付ける。

2) 軒の出が500mm以上の場合は、必要に応じて吊り木を設け、1)と同様の方法で取付ける。

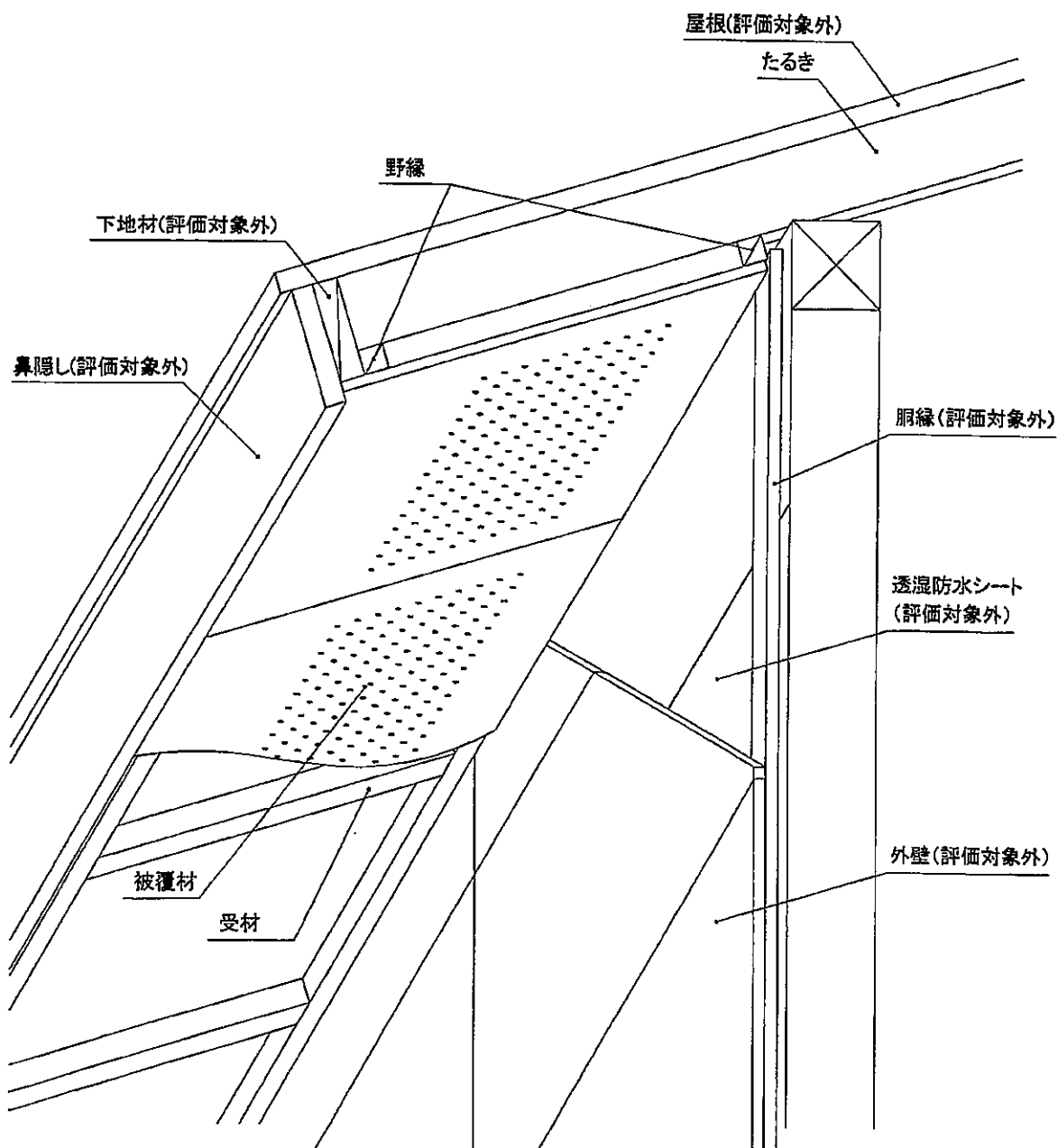
(3) 被覆材の取付け

1) 被覆材は、被覆材固定用留付材を用いて野縁及び受材に取付ける。

2) 目地仕様は、突付け、金属ジョイナー又は本実・合いじゃくりとし、合いじゃくり部の目透かし幅は3mm以下とし、重ね代は9mm以上とする。

3) 被覆材と外装材は壁勝ち又は軒勝ちとし、必要に応じて金属製小口見切り又はシーリング材等でおさめる。

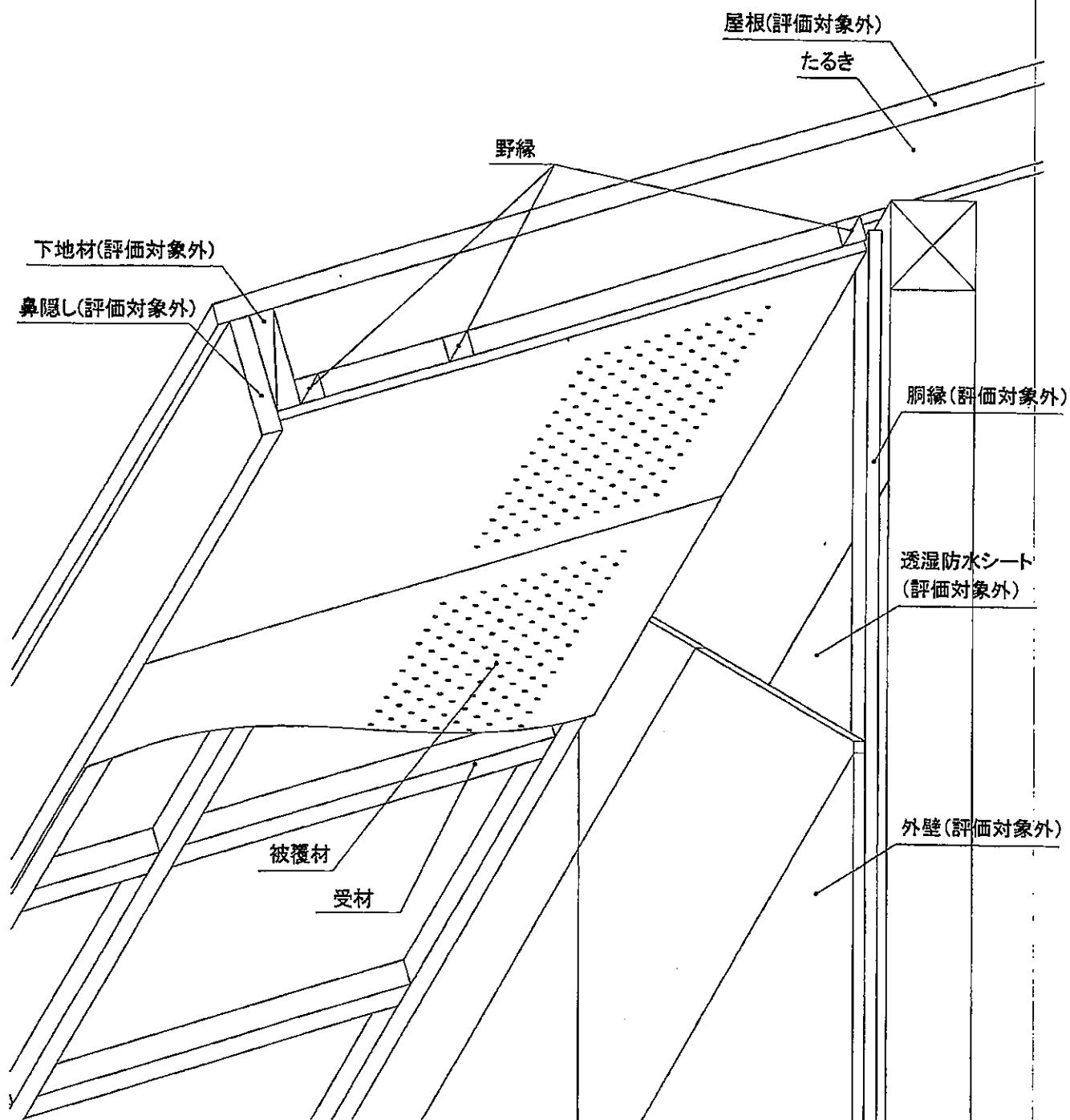
被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合



透視図

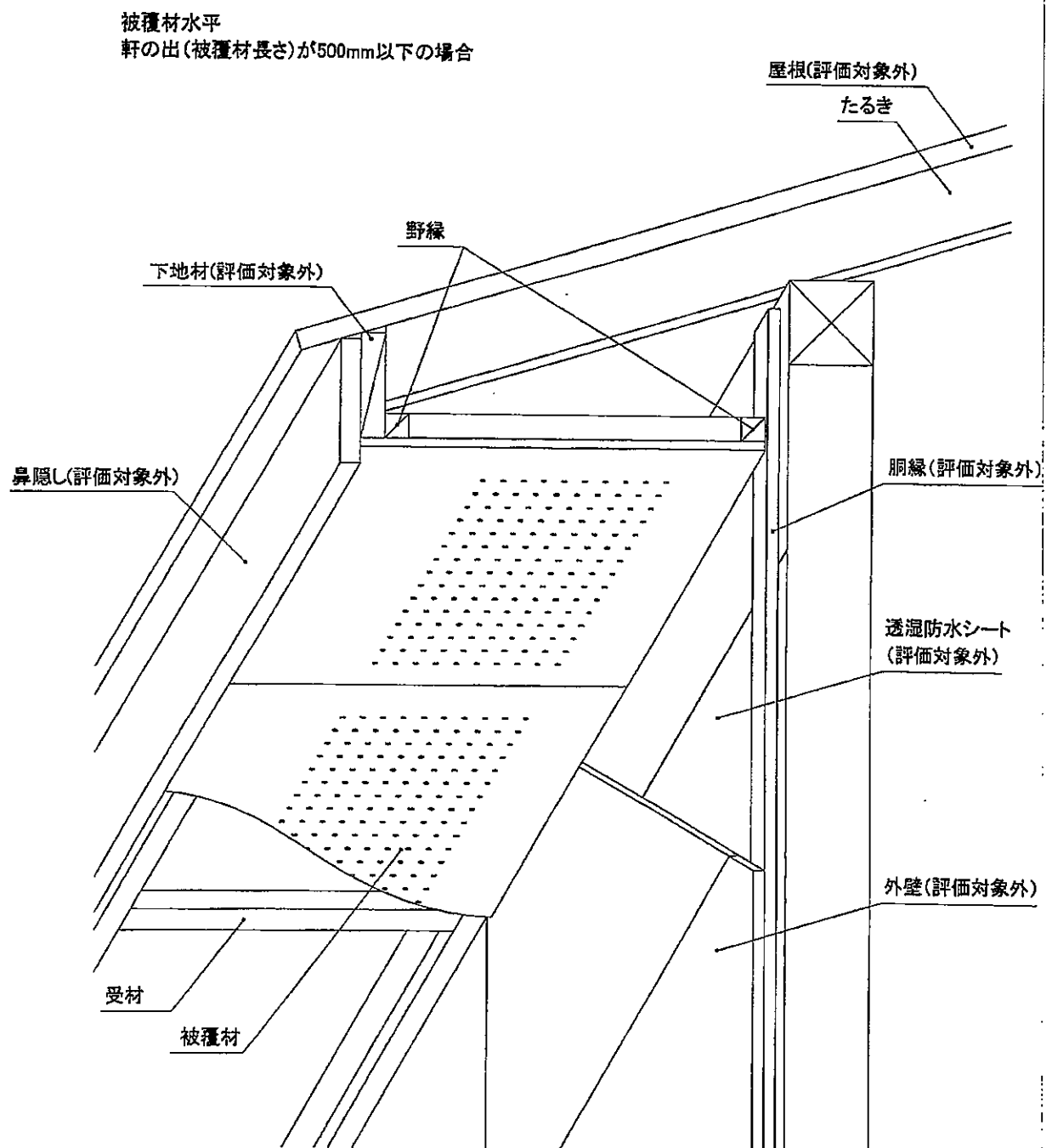
図8 施工図

被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500～1000mm以下の場合



透視図

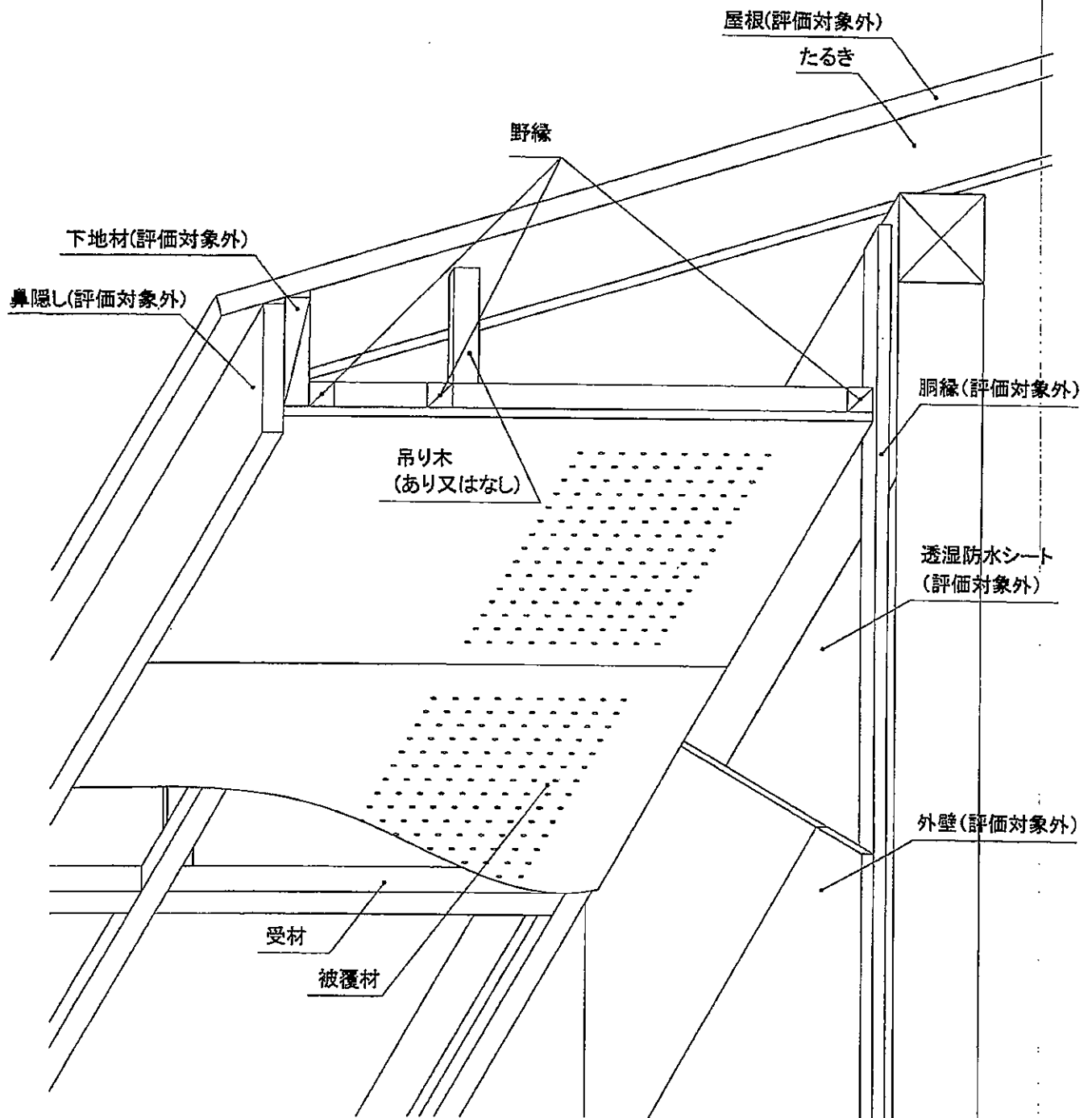
図9 施工図



透視図

図10 施工図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500～1000mm以下の場合



透視図

図11 施工図